FOS 報告書（2025/7/16）

Harvard University SEAS Bioengineering PhD
河井理雄
mail:michio_kawai@g.harvard.edu

1. はじめに

ハーバード大学の Bioengineering 課程で PhD 学生をしている河井理雄と申します。この報告書を書くのも 3 回目になりまいた。

日本でもニュースになっているようですが、この半年は主にハーバード大学とトランプ政権の対立のせいで研究予算が凍結されたりアメリカを追い出されそうになったり大変でした。今回はその辺りについて書いていこうと思います。

2. ハーバードと政府の対立

良くないことなのですが普段どうしても政治に興味が湧かず、自分がアメリカを追い出されそうになった時に始めてハーバードとトランプ政権間の問題を知りました。元々の発端としては、ハーバード大学を含む一部の名門大学で起きた反ユダヤ主義的な言動(要はユダヤ人に対するヘイトスピーチ、嫌がらせなど)への対応が不十分だという批判が広がったことにあるようです。これを受けて、トランプ大統領は「大学がユダヤ人学生の人権を守っていない」として、ハーバードへの強い批判を展開し始めました。ハーバード大学がトランプ政権の反エリート・反リベラル・反国際主義の象徴的ターゲットとされている面もあるのかもしれません。このような状況の中で政権からハーバード大学に、

・国家機関からの研究助成金の凍結
・大学の非課税ステータスの見直し要求
・教育機関としての認定資格を取り消し
・留学生受け入れに必要なビザ制度（SEVP）の認可剥奪

などの圧力措置が取られようとしています。中でも特に大学院生たちは研究助成金凍結とビザ認可剥奪に大きな打撃を受けています。研究助成金凍結により NIH, NSF といった主要な研究予算源から資金を受け取れなくなり、周囲でポスドクや大学院生の解雇の話を聞くようになりました(米国は日本と違い大学院生も給料を貰い雇われているので、その分雇用主である教授の一存で解雇も発生します)。私のラボでも仲が良かった同期の大学院生が突然解雇されてしまい、このような状況下で代わりに雇ってくれるラボも見つからずやむなく修士として出ていくことになってしまいました。入学以来世話になった友人で何か助けになりたかったのですが、特にできることもなくやるせない気持ちです。その他にもラボの方針として幾つかのお金がかかる研究トピックが終了され、個人としてもサブプロジェクトとして予備実験を進めていた研究を続けることができなくなってしまいました。

また、私のような永住権のない留学生にとっては留学生受け入れ資格の剥奪は致命的な問題です。仮にハーバードが留学生受け入れ認可を失った場合、留学生が取れる選択肢は基本的に他大学に転校するか、国を出ていくかのみになります。現在は政権による SEVP 認可剥奪は裁判所に違憲の可能性ありとして差し止められており、一時的に猶予ができていますが、今後の裁判の行方や政権の動きによって在留ステータスが脅かされる可能性はまだ残っています。司法も生きているしハー

バードの大半を占める外国人が全員アメリカを出て行かなければならないような極端な事態にはなり難いと考えていますが、少しストレスフルな状態です。

また、このようにニュースになっている問題以外にもハーバードの留学生が空港で入国を拒否される、国外退去させられる可能性があるから賃貸の契約を断られるなどといった問題をよく聞きます。信じがたい話ですが SNS で政権批判をしていた学生の家に急に政府の人間たちが来てどこかへ連れて行かれたという話も聞きました。私も今年はゴールデンウィークに帰国の飛行機を取っていたのですがちょうど SEVP 認可剥奪のタイミングと重なってしまったためキャンセルせざるを得ませんでした。

こんな状況の中でハーバードの外国人たちはどんな雰囲気かというと、それこそ最初に SEVP 認可剥奪が発表された時はみんな悲観的で大騒ぎしていましたが、現在は数回の大統領令や政府からの通告と裁判所による差し止めを経て、狼少年の童話のようにそれほど話題にもならなくなってきています。まあ実際私たちに今できることもあまり無いので、現状では大袈裟に反応しすぎずにやるべきことに集中するのが最善策なのでしょうが....。

私個人としては今やっているプロジェクトを締めさえできたら今後のプロジェクトはどこでやることになっても一向に構わないのでとりあえずは自分の研究に集中しながら様子を見ようと思います。ハーバードやアメリカを追い出されるような事態になったら、その時はその時でまた考えます。

3. 研究

春ごろから DARPA(国防省) の Advanced research concepts という研究予算に応募していて、書類作りやプレゼンなどをしていました。そちらが無事に採択され、年 30 万ドルの研究予算をもらえることになりました。(そしてその予算が上述のハーバード予算問題のせいで採択即凍結されてしまいました。採択と凍結の知らせを同時に聞いたので、本場アメリカの「いいニュースと悪いニュース、どっちから聞きたい？」を体感することになりました。)

元々教授と研究テーマに対する意見が合わず揉めがちだったのですが、今回自分で多額の予算を取ってきたことで好きに進めていい雰囲気になってくれたのは一安心です。ただ、代わりに今やっているプロジェクトを早めに終わらせてよく分からないロボットを作るように指示されていてまだ色々と面倒ごとが続きそうです。

昨年発表した皮膚のロボットが米メディアの The best new robots of the year に選ばれていました。なんの連絡も無かったので最近まで気づいてなかった…。引き続き研究も頑張っていこうと思います。

その他

報告書を書こうと思ってこの半年何があったか思い返していますが、明らかに研究ばっかりしていました。望んだ生活だし日々の満足度は高いのですが人として駄目になっていっている気がしなくもないので反省しています。

また、今週は船井財団の交流会に参加しました。同じ博士過程の方だけではなく船井出身で PhD を終え企業で働いている方、ポスドクをしながら教員になろうとしている方などさまざまなフィールドで活躍されている方々と話をすることができとても良い刺激を受けました。

活動をサポートしていただいている船井情報科学振興財団様への感謝の言葉を持ってレポートの結びにしたいと思います。